

学校教育目標	かしこく たくましく 心豊かな児童の育成 ～ 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く鈴谷の子 ～
目指す学校像	子ども、教職員一人ひとりが自ら輝く学校 ○明るく活力のある学校○安全・安心な学校○保護者や地域と共にある学校

重点目標	1 子どもが学力を付ける教育課程の経営により「瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く鈴谷の子」を実現する 2 子ども一人ひとりへの細やかな教育支援・相談体制の充実により「瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く鈴谷の子」を実現する 3 学校を支えている地域の人材、保護者を大切にされた地域・保護者と共にある学校の実現 4 物的・質的な教育環境の整備と安全・安心が確保された学校の実現 5 風通しのよい職場・組織づくりと若手・ベテランが共に学び合い成長できる学校の実現
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月19日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○学力 (R6 学力向上ポートフォリオより) ①【知識・技能】教科を問わず、問題を読み解く力や表現力をつけるために、豊かな語彙力が必要である。 ②【思・判・表】国語：「書くこと」では、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することに課題が見られた。 ③算数：「データの活用」について、昨年度同様、他の領域と比べて、課題が見られる。 ○体力 (R6 新体力テスト結果より) ①男子：握力、長座体前屈、反復横跳びで、半数以上の学年でR5市平均を下回っている。 ②女子：握力、上体起こし、長座体前屈で、半数以上の学年でR5市平均を下回っている。	・未来を担う子どもたちが先行き不透明な将来を力強く生き抜くための真の学力・体力の育成 ・主体的な態度、豊かな心を育てる教育・体験的活動の充実	①学力向上アクションマップに則り、ポートフォリオの目標・策の設定 (4月)、全国学テ調査結果分析 (8月)、学力向上カウンセリング学校訪問 (2学期中) 市学習状況調査結果分析及び年度末評価 (2月) を行う。 ②学校行事と各教科等を有機的に連結させ、教育効果を上げる教育実践及び次年度年間指導計画の作成を行う。(2学期末に作成スケジュール提示) ①主体的な態度、豊かな心を育成するために、異学年交流や体験的・対面的な活動や集会活動を推進する。(2学期末)	①計画通りの分析や評価ができたか(進行管理)、また、成果や課題に対する具体的な改善策が打ち出せたか(具体的な打ち手) 【学校評価】 【学力向上ポートフォリオ】 ②カリキュラムマネジメントにより、目に見える教育効果が得られたか。また、次年度の年間行事計画や年間指導計画の改善ができたか。 【学校評価】 【年間指導計画、行事計画の作成】	① 全国学力学習状況調査の結果分析を校内研修の一環として行い、学力向上ポートフォリオに成果と課題を整理した。併せて「個別最適な学び」の研究テーマのもと、全教職員が個々の研修課題を掲げ、授業改善、教育課程の工夫改善に取り組んでいる。 ②学校評価教職員アンケート「学校の経営目標」に関する項目100%、「教育課程」に関する項目100%	B	・学力向上策をより具体的に講じ、学校課題研究の取組を生かし、教員の指導力等の資質向上を進めていく。 ・学校課題研究をさらに推進し、カリキュラムマネジメントの視点から、現行の教育指導計画、年間指導計画に改善を加えていく。	・「授業にわくわくして取り組む」の肯定的評価が低いのは、しっかりと分析して改善していきたい。 ・学級文庫の充実はとてよい。「進んで読書をする」の児童の割合が低いが、読書習慣の育成は、大切なことであるのでぜひ取り組んでほしい。 ・月曜日が休みの文化公共施設が多いので、振替休業日については、月曜日が多いのだが、それ以外の検討はどうか。	
2	○R6 年度、学校評価に係る保護者アンケートにおいて、「学校は、児童や保護者が相談した際、誠意をもって対応している」の項目で、肯定的評価が90.0% (R5 年度比+4.1) であった。 ○R6 年度、学校評価に係る児童アンケートにおいて「授業や生活友だちのことで困っていることや、悩みごとがあるときに先生は相談にのってくれますか」の項目で、肯定的評価が94.0% (R5 年度比+2.0) であった。	・子どもの発達やサポートにおける教育環境の整備と安心・安全の確保 ・児童の心と体の健康管理に向けた組織的な生徒指導体制の構築	①教室に入れない児童・保護者の要望に応えるため、教育相談に、Sola ルーム担当を配置し、児童・保護者のニーズを把握し、困り感を共有できる体制をつくる。(2学期末) ②教育効果を上げ成果を生み出すための会議室等の整備と有効活用、備品・消耗品の整備を進める。(2学期末)	①個人面談期間、全児童面談 (スマイルタイム)、教育相談月間を計画的に位置付け、専門職とも連携を図り、児童・保護者への支援体制を充実させる。 【学校評価】 ②Sola ルームの整備と、児童への心のサポート体制の整備を進める。 【学校評価】	①空き教室の活用について検討し、学校配当予算を有効に執行しながら教材室、Sola ルームの整備が進んでいる。 ②学校評価保護者アンケート「相談への誠意ある対応」肯定的評価96.4%	B	・教育相談体制を年間通じて、効果的に年間予定に位置付け、児童・保護者への心のサポート体制の充実をさらに推進していく。 ・教育効果を高めるために、校内の空き教室の整理・整備を進めていく。	・児童の心の声やアンケートをしっかりと把握できていると考える。今後ぜひ、継続してほしい。 ・教育相談の需要は高まっていると考えられる。より一層の周知ができると、利用もさらに高まるのではないかと。 ・いじめや不登校が少ないのは、よいことだが、いじめの芽については、日頃からアンケートを高くして注意深くあつてほしい。	
3	○R6 年度、全国学力学習状況調査 (6年) の児童質問紙調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに対して肯定的な回答が93.5%であり、全国平均を10.0ポイント上回った。 ○R6 年度、学校評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は保護者や地域の方々との連携した活動をしたり、協力して取り組んだりしている」の問いに対して肯定的な回答が、100% (R5 年度比+12.5) であった。	・地域・地域人材、保護者を大切にし、地域・保護者と共にある学校 ・学校運営協議会やSSN、関係機関との連携	①学校運営協議会においてめざす児童像を共有し、「家庭・地域と共に子どもを育てるための具体的方策」等、学校の課題解決に向けた熟議を行う。(2学期末) ②放課後子ども居場所事業等、自治会、PTA との連携により教育拠点としての学校の利便性を向上させる。(2学期末)	①学校運営協議会において、学校の課題解決に向けた具体的な策を生み出すことができたか。 【学校運営協議会記録】 ②学校に関わる組織や地域社会、保護者等との連携により学校の利便性が向上したか。 【学校運営協議会記録】	①学校運営協議会に代表委員会の児童を参加させることで、顔の見える対話型会議を実施することができた。 ②全国学テ質問紙調査「地域や社会」に関する項目82.7%であり、全国平均81.3%を1.4ポイント上回った。学校評価保護者アンケート「保護者や地域との連携に関する項目97.0%	A	・居場所としての「Sola るーむ」の環境整備を進めるとともに、保護者や地域施設、近隣学校等との連携を進め、本校に合った「Sola るーむ」の運用を進める。 ・次年度も引き続き、地域との交流を行い、学校運営協議会では、児童の主体的・積極的な関わり方を推進する。	・地域の方への挨拶は、やはり、日頃からのつながりが重要であり、欠かせない。そうした機会があるとよい。 ・小中連携して、中学校の制服のリユースシステムを構築できるとよい。 ・子ども中心の周年行事はとてもよかった。コミスクも本物にしてほしい。	
4	<現状・課題> ○R6 年度、学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、「学校は、登下校時や教育活動時の安全について指導を行い、安全・安心な学校づくりに努めている」の項目で、肯定的評価が90.0% (R5 年度比-2.2) であった。 ○昨年度、学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、児童の学習環境の整備に努めている」の項目で、肯定的評価が90.0% (R5 年度比+3.6) であった。	・学校での安全指導と安全教育について ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための環境整備	①防犯ボランティアや子ども110番の家との連携等により地域社会、保護者を巻き込みながら校内・学区・通学路の安全性を向上させる。(2学期末) ②学校施設を共有する他の組織 (子ども居場所事業、チャレンジスクール、PTA 等) と共に学校施設の安全性や利便性を高めると共に、意図的計画的な予算執行等により子どもの健康や安全を維持できる環境整備を進める。(2学期末)	①地域との連携の推進により、校内・学区・通学路の安全性が向上したか。 【学校評価】 ②他の組織と協働することで、学校施設の安全性や利便性が高まったか。また、このことに資する予算執行や環境整備を行えたか。 【学校評価】 【学校配当予算執行記録】	①PTA と連携し、通学班の在り方を検討していく中で、通学班の決まりを再確認し、安全性を高めることができた。 ②学校評価保護者アンケート「安全指導」95.2% ①周年行事実行委員会とも連携し、学校内や周辺 (校舎案内板改修、プール底改修、あじさい小径整備、樹木剪定等) の環境整備を進めることができた。 ②学校評価保護者アンケート【環境整備】96.3%	B	・安全指導の強化と共に、PTA・地域との連携を深め、児童の通学時の安全性を引き続き、向上させていく。 ・児童の安全安心を最優先に、引き続き、必要な環境整備を行っていく。 ・他の組織、関係機関とも連携し、環境整備を迅速かつ効果的に行っていく。	・令和8年度から自転車の青切符制度導入に関し、小学生にも新しい自転車運転制度の教育が必要である。また、非常災害時に、学校で引渡した完了まで児童を預かる場舎について、整えておく必要がある。 ・最近、通学時の父母の見守りが増えており、よい傾向である。	
5	<現状・課題> ○教職員28名 (管理職を除く) の平均年齢が36.2歳 (R7.5.1 現在) であり、年代別では、50代以上4名 (21.0%)、40代6名 (31.6%)、30代8名 (42.1%)、20代9名 (47.4%) となっている。20～30代の教職員を合わせると、60.7%となり、学校運営における中心である。学校の教育力を高めるための教職員一人ひとりの資質を更に向上させ、経験を踏ませることが課題である。	教職員のキャリア形成に関する取組 ・教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上 ・働き方改革や業務効率化についての取組について	①教職員一人ひとりが自らのキャリア形成に向け資質向上を目指すことのできる研修奨励を行う。(当初面談時) ②教員一人ひとりが自らの課題をもち、主体的に解決を図る校内研修を行う。(通年) ③運営委員会に「働き方・業務改善検討委員会」を位置付け、定期的に業務の進め方についての振り返りを行い、改善に繋げる。(月1回)	①研修奨励によって、教職員の資質向上が図れたか。 【学校評価アンケート・達成状況面談の研修】 ②教職員一人ひとりが課題をもち、主体的な校内研修が行われたか。 【学校評価・校内研修振り返り】	①教科を限定しない校内研修や教職員個々の業務遂行や指導力等の資質向上やカリキュラムマネジメントの推進を目標とした結果、全ての教員が個々の課題をもち主体的な学校課題研修を行うことができた。 ・学校評価教職員アンケート「校内研修の適性」肯定的評価100%	B	・今後も教職員の年度当初面談を活用し、キャリア形成に資する研修奨励を行っていく。 ・児童の実態や学力向上、教職員個々のニーズ等に合わせた汎用性や自由度の高い学校課題研修を進め、カリキュラム開発や教職員の資質向上を図る。	・「働きやすい職場」の教職員の肯定的評価が低いことについて、内容をしっかりと分析して、改善していきたい。 ・職員の雰囲気や、職員室の風通しのよさが、重要だと考える。なんでも言える職場であれば、子どもにとってもよい影響を与えることになる。	